

第 51 回井上春成（いのうえはるしげ）賞 受賞者決定について

井上春成賞委員会（委員長 橋本 和仁）は、第 51 回井上春成賞の受賞者を決定しました（別紙 1）。

「井上春成賞」は、科学技術振興機構の前身の 1 つである新技術開発事業団の初代理事長であり、工業技術庁初代長官でもあった井上 春成 氏が日本の科学技術の発展に寄与した功績に鑑み、新技術開発事業団の創立 15 周年を記念して創設された賞です。

本賞は、大学や研究機関などの独創的な研究成果を基にして企業が開発、実用化した技術のうち、日本の科学技術の進展や経済の発展に寄与し、福祉の向上に貢献した、優れた研究開発（技術）を表彰するものです。1976 年に第 1 回の表彰を行い、今回で 51 回目を迎えます。

今年度の表彰技術は、自薦を含む推薦方式により 2025 年 12 月 1 日（月）から 2026 年 2 月 27 日（金）に募集し、井上春成賞選考委員会（別紙 2）で 2 件を選定後、井上春成賞委員会（別紙 3）で決定されました。

表彰は、表彰技術ごとに研究者 1 名および企業代表者 1 名を対象とし、井上春成賞委員会委員長名による賞状および賞牌（しょうはい）を贈呈します。

また、新技術振興渡辺記念会より副賞として、研究者に対して研究奨励金 200 万円が贈呈されます。

主催：井上春成賞委員会

共催：科学技術振興機構

後援：新技術振興渡辺記念会

<添付資料>

別紙 1：第 51 回井上春成賞 受賞者

別紙 2：井上春成賞選考委員会選考委員

別紙 3：井上春成賞委員会委員

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構内 井上春成賞委員会事務局

〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル

宮田 秀幸 (ミヤタ ヒデユキ)

Tel : 048-226-5618

E-mail : inouesho@jst.go.jp

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

第 51 回井上春成賞 受賞者

(敬称略)

受賞技術の名称

「尿中マイクロ RNA による多がん種早期発見プラットフォーム」

研究者：安井 隆雄（ヤスイ タカオ）

名古屋大学 大学院工学研究科 教授

企 業：Graif 株式会社（代表取締役 CEO 小野瀬 隆一）

＜受賞理由＞

がんの早期発見は患者の生存率を大幅に改善するが、従来の血液検査・腫瘍マーカー検査は侵襲性や検出限界、画像診断は解像度やコストの面で、受診率の向上や早期発見には限界があった。

本技術では、非常に短い RNA 分子であるマイクロ RNA などを含む腫瘍由来細胞外小胞の尿中への輸送機構を解明し、排泄物に過ぎなかった尿ががん由来分子の有用な情報源になり得ることを見いだした。また、尿中マイクロ RNA を網羅的に取得する技術の開発および大規模臨床データベースを用いた定量解析により、健常者とがん患者との発現差異をがん種ごとに識別する判定モデルを確立した。この結果、単一マーカーに依存せず、複数のマイクロ RNA の発現パターンを利用することで、がんの早期段階のわずかな分子変化を高精度に判定することに成功した。

本技術は、尿検体を用いた簡便かつ非侵襲性の検査方法を提供することで、すい臓がんなど自覚症状に乏しいさまざまながん種の早期発見、その後の治療選択肢の拡大および予後の改善につながり、健康寿命の延伸および医療費負担の軽減など健康で活力ある社会の実現への貢献が期待される。

受賞技術の名称

「温度受容体の制御成分を活用した高機能化粧品の開発」

研究者：富永 真琴（トミナガ マコト）

名古屋市立大学 なごや先端研究開発センター 特任教授

企 業：株式会社マンダム（代表取締役 社長執行役員 西村 健）

＜受賞理由＞

近年、アレルギー疾患などに起因する皮膚のバリア機能の低下により、従来安全性が高いとされている化粧品でも不快な刺激を感じて使用を控える例が増えている。このような背景から、より安心して使用できる化粧品の開発が求められていた。

本技術では、細胞の感覚センサーである温度感受性 TRP (Transient Receptor Potential) チャンネルが皮膚上の不快な刺激で活性化することに着目し、その作動メカニズムの解明と抑制成分の探索を実施した。その結果、TRP チャンネルを構成する TRPA1（わさびの刺激成分に反応）および TRPV1（とうがらしの刺激成分に反応）の活性化を抑制する成分を見だし、ヘアカラー・クレンジング・清涼化粧品・シャンプーなど多様な製品に配合することで快適に使用できる化粧品の実用化に成功した。

この技術により、従来、使用を控えていた人も快適に使用できる化粧品が実現し、QOL (Quality of Life) 向上に貢献している。さらに、新たな抑制成分の発見や免疫反応との関係性の解明など基礎研究が進展しており、次世代化粧品の創出が期待される。

井上春成賞選考委員会選考委員

(敬称略、選考委員長を除き五十音順)

西本 清一 (選考委員長)	京都高度技術研究所 理事長 京都市産業技術研究所 理事長
秋富 慎司	金沢医科大学 救急医学講座 教授 石川県医師会 参与
朝倉 富子	放送大学 特任教授
井上 将行	東京大学 大学院薬学系研究科 教授
須川 成利	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 東北大学 リサーチプロフェッサー・名誉教授
豊玉 英樹	株式会社エヌエフホールディングス 社外取締役
中村 志保	元 キオクシア株式会社 メモリ技術研究所 参事
林 潤一郎	九州大学 先導物質化学研究所 教授
原 亨和	東京科学大学 フロンティア材料研究所 教授
寶迫 巖	情報通信研究機構 Beyond Connectivity 研究開発推進ユニット ユニット長
松尾 亜紀子	慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授
満倉 靖恵	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授
村上 英樹	東京科学大学 物質理工学院 特任教授
八木 康史	大阪大学 D3 センター 特任教授

(2026年6月8日現在)

井上春成賞委員会委員

(敬称略、委員長および監事を除き五十音順)

橋本 和仁 (委員長)	科学技術振興機構 理事長
岩淵 明	元 岩手大学 学長 (現 名誉教授)
梶原 ゆみ子	内閣府 科学技術・イノベーション会議 有識者議員
下田 隆二	新技術振興渡辺記念会 専務理事
西本 清一	京都高度技術研究所 理事長 京都市産業技術研究所 理事長
馬場 俊彦	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授
濱口 道成	日本医療研究開発機構 先端的開発研究戦略センター センター長 前 科学技術振興機構 理事長
原山 優子	情報通信研究機構 GPAI 専門家コミュニティ東京センター センター長
松永 道隆	NHK 大阪放送局 コンテンツセンター2部 副部長
光石 衛	日本学術会議 会長 帝京大学 特任教授
美馬 のゆり	公立はこだて未来大学 名誉教授 日本学術会議 会員
菅谷 行宏 (監事)	株式会社アイ・エス・シー 取締役
山田 理恵 (監事)	東北電子産業株式会社 代表取締役社長

(2026年6月8日現在)